96. **Hirsutella entomophila** Pat. in Rev. Mycol. **14**: 69 (1892); Speare in Mycologia **12**: 68 pl. 3 f. 12, 13 pl. 5 f. 4 (1920).

Perfect st. ? *Cordyceps curculionum* (Tul.) Sacc.

Hab. On adult beetle, det. by Petch, kept in Kew. On adult beetle, Ecuador, kept in Farlow Herb.

97. **Cordyceps isarioides** Curtis, ex Massee in Ann. Bot. **9**: 36 pl. 2 f. 36–39 (1895); Seaver in North Amer. Fl. **3**(1): 53 (1910) et Mycologia **3**: 217 pl. 54 f. 12 (1911).

Hab. On moth, Lepidoptera. N. America "no detailed locality given". Type in Kew. According to Massee (1958), another specimen (isotype ?) kept in Curtis collection of Farlow Herbarium with note "Julio 1866, Hillsboro N. C.".

ここに掲げる Lloyd によるタイプの写真 (Fig. 11B) では子実体が少くとも 6 本あるが，私がスケッチ (Fig. 11A) した時点では只の 3 本が残っていた。何人かの研究者によって検討されているうちに消耗したのであろう。私はこれに手を加えることが出来なかった。

子実体は高さ 4 mm 位，半ば以上に少数の被子器が軸に直角に裸生している。各々比較的長い頸部がある。Massee の原図 (Fig. 11C) では子嚢胞子が "Spores continuous" である。しかし Lloyd によればヨードヨードカリ添加によって明らかな隔壁が見られるという。しかし 2 次胞子に切断することはないようである。私は1941年に本種を認めたが，Lloyd も Mains もこれを *C. tuberculata* の異名としている。

---

□イフチェンコ，S. I.，阿部光伸 (訳). **おもしろい植物学の話** pp. 198. 文一総合出版. 東京. 1980 IX. ¥980. イフチェンコはウクライナの林学者で，本業の傍ら植物学についての普及活動を行っている。本書も「植物学についておもしろく」(1968) を主とし「イフチェンコの秘密」(1968) からも数編を加えて訳出したものである。全体を食用の植物，薬用の植物，及び風変わりな植物の 3 部として，32の小編が集めてある。色々な事柄が次から次と出てくるが，著者がソ連人であるだけにソ連に関連づけて述べられており，存外目新らしいことが多いのも特徴である。ブドウの原種は平地に野生し巻ひげもなかったが，地球の気候の変化で他の丈の高い木に蔽われるようになって巻ひげを生じ，森の外にでてくるようになった。茶は「落葉」常緑樹である。ゴボウがフランスの雑草界に君臨したのは，ナポレオンがモスコーで敗退して，ロシアで徴発した馬糧の中に種子が入っていたからだ。コスギランからとれるヤーリャギンは抗アル中剤として特効があり，ほかの治療法ではどうしようもなかったアル中患者20名中，17名が完全に治ったなど，中々興味が湧く，訳文はまことに流暢である。 (前川文夫)